

第5章 地域別構想

1. 地域別区分

(1) 地域別区分の考え方

全体構想の方針及び各地域の現状を踏まえて、地域別のまちづくり方針を示した地域別構想を定めます。

地域区分は大谷東部地域、大谷西部地域、粕川地域、大松沢地域の4区分とします。考え方は以下のとおりです。

●前都市マスでの地域区分

- ・前回の都市計画マスタープランでは、4地域の区分と設定していたため踏襲します。

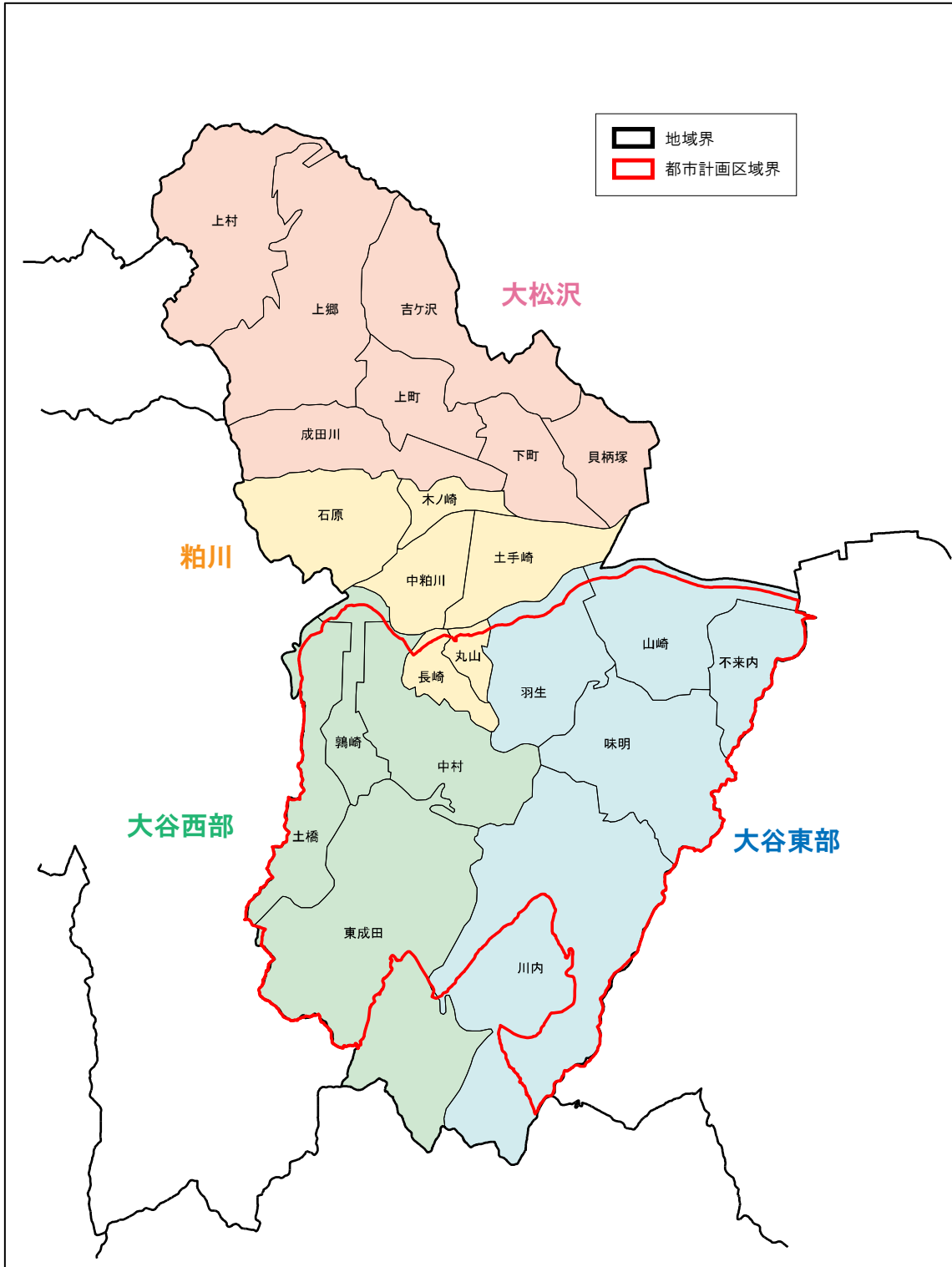
●住民の地域感覚と都市計画区域内外とのまちづくりの連携

- ・4地域（大谷東部、大谷西部、粕川、大松沢）は、1954年の大谷村、粕川村、大松沢村の合併による大郷町発足以来の生活圏としての地域区分であることから、都市計画区域で分断せず、4地域での区分とします。
- ・都市計画区域内外とのまちづくり連携の視点から、地域ごとの考え方で構想を整理します。

表 5.1 地域別区分

地域区分	地区名
大谷東部	羽生、山崎、味明、不来内、川内
大谷西部	東成田、中村、鶉崎、土橋
粕川	長崎、丸山、中粕川、石原、木ノ崎、土手崎
大松沢	成田川、上郷、上村、上町、下町、吉ヶ沢、貝柄塚

図 5.1 地域別区分図



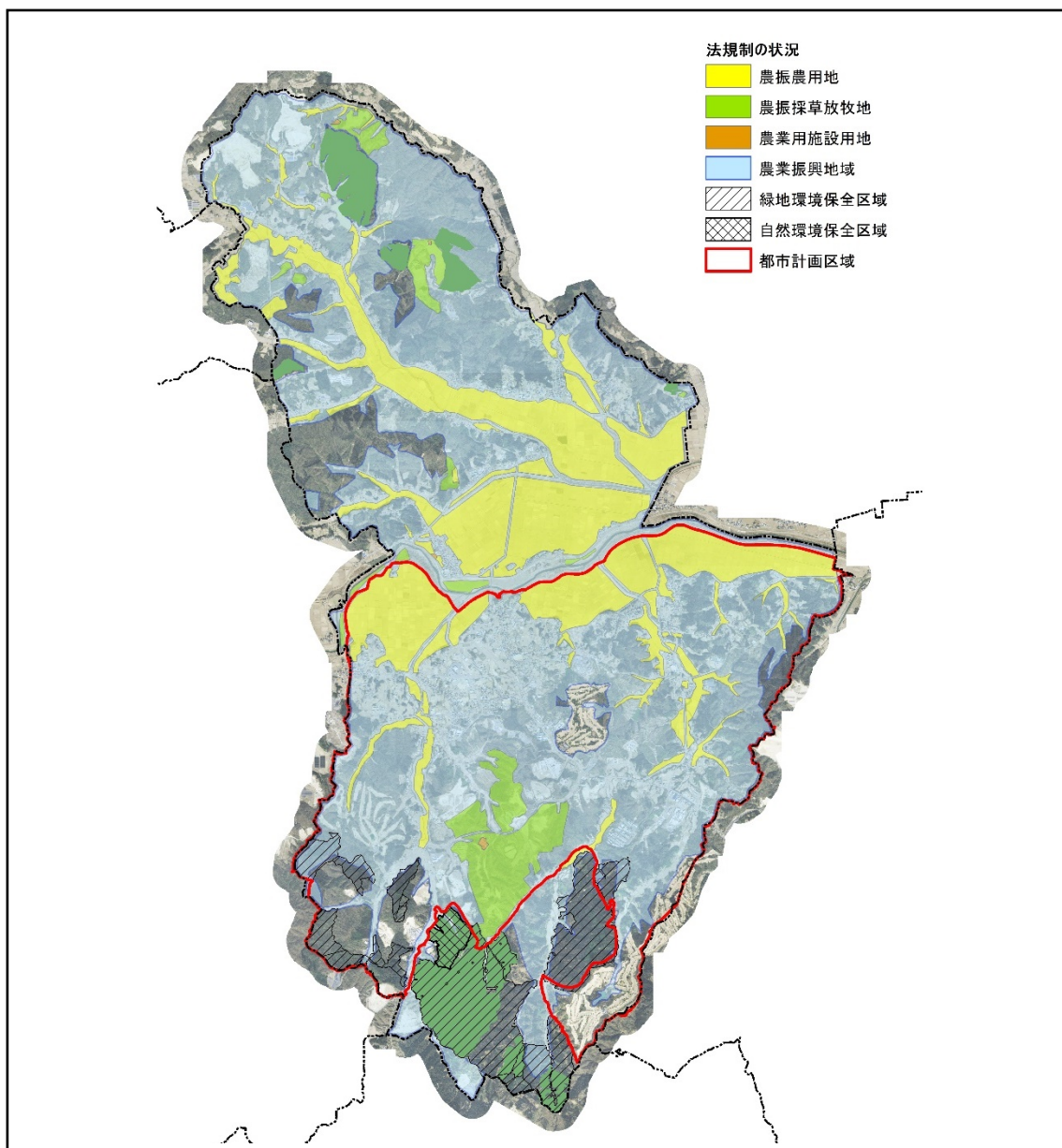
(2) 都市計画区域

本町の都市計画区域とその他の法規制の重なりは次のとおりです。

●都市計画区域

- ・都市計画区域は、吉田川以南の地域で、町域南端部の保安林を含む山林を除く地域に適用されています。
- ・地域区分では大谷西部、大谷東部の大部分とこれらに加えて粕川地域の吉田川以南の一部のみが都市計画区域内となります。

図 5.2 都市計画区域とその他の法規制



出典：宮城県、大郷町

(3) 地域別構想の構成

地域別構想は、全体構想を踏まえて整理します。内容は以下のとおりです。

(1) 現状と課題

地域の現状と課題は、以下の項目で整理します。

①人口推移

- ・2010年から2020年までの住民基本台帳について、人口、世帯数、高齢化率（65歳以上の人口推移）、若年化率（15歳以下の人口推移）の4項目で比較整理します。

②土地利用

- ・現状の土地利用状況について整理します。

③公共施設整備状況

- ・主な公共施設の設置や整備状況について整理します。

④住民意向

- ・2019年9月に実施した住民意向調査について、地域別の結果を整理します。



(2) まちづくりの方針

(1) 地域の現状と課題を踏まえ、地域ごとにまちづくりのテーマを定めるとともに今後のまちづくりに係る方針を定めます。

①土地利用の方針

- ・今後の土地利用に関する方針を定めます。

②地域基盤施設の方針

- ・インフラや施設物に関する方針を定めます。

③環境景観形成の方針

- ・良好な景観を保全するための方針を定めます。

2. 地域別構想

2-1 大谷東部地域

(1) 現状と課題

①人口推移

【地域人口】：減少率、減少実数いずれも人口減少が進んでいる地域となっている。

- ・直近 11 年間の地域人口は、16%減少（426 人減）で、町内での減少率 12.1%を上回っています。
- ・地域内で減少率が最も大きいのは不来内地区の 29.9%減（75 人減）で、減少人数（実数）が最も大きいのは味明地区 129 人減（20.6%減）となっています。これは、味明地区、町営住宅田布施団地が廃止となった影響が考えられます。これらは、町内の減少率、減少実数においてもいずれもトップとなる値で人口減少が最も進んでいる地域です。

図 5.3 大谷東部地域の人口推移

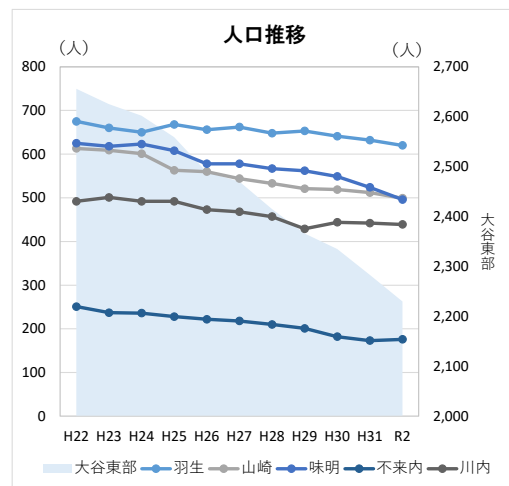


表 5.2 大谷東部地域の人口推移

人口 (人)	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	増減率 R2/H22	増加数 R2-H22	空き家 R2
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2			
羽生	675	660	650	668	656	662	648	653	641	632	620	-8.1%	-55	9戸
山崎	613	609	601	563	560	544	533	521	519	512	499	-18.6%	-114	13戸
味明	625	618	623	608	578	578	567	562	549	524	496	-20.6%	-129	18戸
不来内	251	237	236	228	222	218	210	201	182	173	176	-29.9%	-75	3戸
川内	492	501	492	492	473	468	457	429	444	442	439	-10.8%	-53	3戸
小計	2,656	2,625	2,602	2,559	2,489	2,470	2,415	2,366	2,335	2,283	2,230	-16.0%	-426	46戸
大郷町計	9,101	8,985	8,858	8,800	8,686	8,559	8,478	8,324	8,204	8,089	7,999	-12.1%	-1,102	129戸

【地域世帯数】：羽生、川内では増加し、山崎、味明、不来内では減少している。

- ・直近 11 年間の地域世帯数は、2.7%増加となっています。
- ・地域内で世帯数の増加率、増加実数、いずれも最大は羽生地区で 17.5%増（33 世帯増）となっています。世帯数の増加については、福祉施設の整備が影響として考えられます。
- ・地域内で世帯数の減少率が最も大きいのは不来内地区で 9.2%減（6 世帯減）、減少世帯数（実数）が最も大きいのは山崎地区と味明地区となり、それぞれ 10 世帯減（約 5%減）となっています。これは、味明地区、町営住宅田布施団地が廃止となった影響が考えられます。

図 5.4 大谷東部地域の世帯数

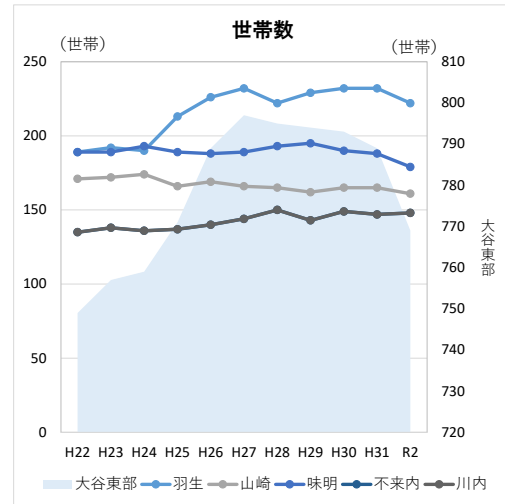


表 5.3 大谷東部地域の世帯数

世帯数 (世帯)	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	増減率	増減数	世帯当たり人員	
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R2/H22	R2-H22	H22	R2
羽生	189	192	190	213	226	232	222	229	232	232	222	17.5%	33	3.6	2.8
山崎	171	172	174	166	169	166	165	162	165	165	161	-5.8%	-10	3.6	3.1
味明	189	189	193	189	188	189	193	195	190	188	179	-5.3%	-10	3.3	2.8
不来内	65	66	66	66	66	66	65	65	57	57	59	-9.2%	-6	3.9	3.0
川内	135	138	136	137	140	144	150	143	149	147	148	9.6%	13	3.6	3.0
小計	749	757	759	771	789	797	795	794	793	789	769	2.7%	20	3.5	2.9
大郷町計	2,610	2,618	2,643	2,681	2,704	2,727	2,744	2,751	2,769	2,794	2,798	7.2%	188	3.5	2.9

【高齢化率】：65 歳以上が 5 人に 2 人という水準（40%）を超えつつある。

- ・2020 年 3 月末の地域高齢化率は 40.5%と、町内平均の高齢化率 37.1%を上回っており、65 歳以上の方が 5 人に 2 人という水準（40%）を超えつつあります。
- ・高齢化率が最も高いのは、不来内地区で 47.2%に達しており、50%に近づいています。これは町内 22 地区の内、成田川地区（54.4%）に次ぐ 2 番目に高い水準です。また、地域内で高齢化率が最も低いのは味明地区で 38.1%です。

図 5.5 大谷東部地域の高齢化率

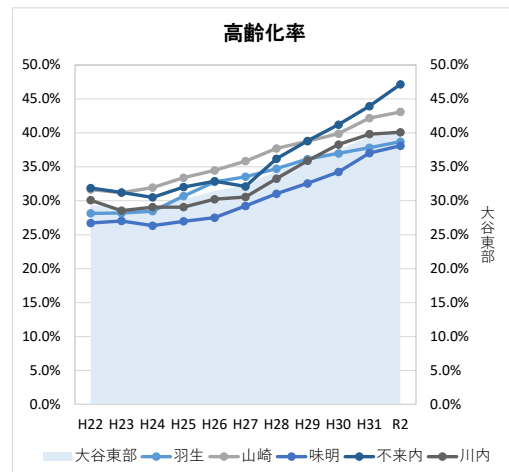


表 5.4 大谷東部地域の高齢化率

高齢化率	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	増減率	増加数
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R2/H22	R2-H22
羽生	28.1%	28.2%	28.5%	30.7%	32.8%	33.5%	34.7%	36.1%	37.0%	37.8%	38.7%	26.3%	50
山崎	31.6%	31.2%	31.9%	33.4%	34.5%	35.8%	37.7%	38.8%	39.9%	42.2%	43.1%	10.8%	21
味明	26.7%	27.0%	26.3%	27.0%	27.5%	29.2%	31.0%	32.6%	34.2%	37.0%	38.1%	13.2%	22
不来内	31.9%	31.2%	30.5%	32.0%	32.9%	32.1%	36.2%	38.8%	41.2%	43.9%	47.2%	3.8%	3
川内	30.1%	28.5%	29.1%	29.1%	30.2%	30.6%	33.3%	35.9%	38.3%	39.8%	40.1%	18.9%	28
小計	29.3%	29.0%	29.1%	30.2%	31.5%	32.3%	34.4%	36.1%	37.6%	39.5%	40.5%	15.9%	124
大郷町計	28.0%	27.7%	28.2%	28.9%	29.8%	30.9%	32.4%	33.7%	35.0%	36.2%	37.1%	16.5%	420

【若年人口率】：15歳未満が10人に1人という水準（10%）に至っている。

- ・2020年3月末の地域若年人口率は10.1%と、町内平均の若年人口率11.1%を下回っており、若年人口の割合が少なくなっています。
- ・高齢化率が最も高い不来内地区では、若年人口率が5.7%まで落ち込んでいます。
- ・地域内で若年人口率が最も高いのは川内地区で13.9%となっています。

図 5.6 大谷東部地域の若年人口率

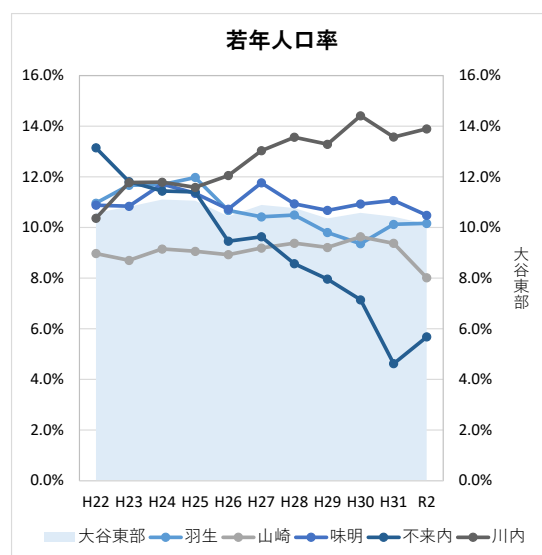


表 5.5 大谷東部地域の若年人口率

若年人口率	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	増減率	増加数
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R2/H22	R2-H22
羽生	11.0%	11.7%	11.7%	12.0%	10.7%	10.4%	10.5%	9.8%	9.4%	10.1%	10.2%	-14.9%	-11
山崎	9.0%	8.7%	9.2%	9.1%	8.9%	9.2%	9.4%	9.2%	9.6%	9.4%	8.0%	-27.3%	-15
味明	10.9%	10.8%	11.7%	11.3%	10.7%	11.8%	10.9%	10.7%	10.9%	11.1%	10.5%	-23.5%	-16
不来内	13.1%	11.8%	11.4%	11.4%	9.5%	9.6%	8.6%	8.0%	7.1%	4.6%	5.7%	-69.7%	-23
川内	10.4%	11.8%	11.8%	11.6%	12.1%	13.0%	13.6%	13.3%	14.4%	13.6%	13.9%	19.6%	10
小計	10.6%	10.8%	11.1%	11.1%	10.4%	10.9%	10.8%	10.4%	10.6%	10.4%	10.1%	-19.6%	-55
大郷町計	11.1%	11.1%	11.0%	11.4%	11.4%	11.4%	11.6%	11.3%	11.2%	11.1%	11.1%	-12.3%	-124

②土地利用

【農地】: 吉田川以南の平地部、味明川の谷筋平地部は、まとまった優良農地として利用・保全をしている。

- ・吉田川以南の平地部及び支流の味明川が形成する谷筋平地部は、ほ場整備等により農業基盤整備が施工され、まとまった優良農地として利用されています。また、農用地の規制により保全され、原則として農業利用以外の用途への転用は制限されています。

【既存集落】: 平地部に接する丘陵部に既存集落が分布している。

- ・既存集落は、吉田川平地部と接する丘陵部の(一)竹谷大和線沿道部及び味明川谷筋平地部に沿った(一)小牛田松島線沿道に分布しています。山崎、味明地区では比較的多くの空き家が生じています。

【工業・流通系】: (主)大和松島線沿道は工業・流通系機能が立地集積しているが、沿道から直接見えない工場利用や非建築的土地利用などが里山の中に点在している。

- ・東西方向の主軸道路である(主)大和松島線沿道は、エコファクトリー(川内流通工業団地)を始め大規模な工業系、流通系の土地利用が集積しています。エコファクトリーは、環境・リサイクル産業が集積立地するモデル工業団地です。
- ・その他の民間大規模工場等は、県道からアプローチ道路を介して奥まった山林を切り開いた敷地利用であるため、沿道から建物が見えにくい立地形態が多くなっています。このことから、自然環境保全や里山保全の観点から環境負荷の低減や環境保全対策の徹底、監視体制の強化が求められています。
- ・これらの大規模な工業系敷地のうち、資材置場や工場跡地となっている土地利用も見られ、また、町道長福寺東成田線沿道地区ではまとまった規模の土砂採取地が点在しています。このような土地利用は、都市計画区域内ではありますが、非建築的土地利用であるとともに規制の緩い農振白地地域であるため生じているものと考えられるため、新たな土地利用調整の仕組みについて検討が必要です。

【自然環境】: 本地域南端部は、都市計画区域外であるが、保安林及び県緑地環境保全地域が指定され法的に保全されたまとまった山林となっている。

- ・都市計画区域内で松島町との町境部には大規模なゴルフ場が設置されています。また、本地域南端部は、都市計画区域外ですが、保安林及び県緑地環境保全地域が指定されまとまった山林となっています。
- ・味明川上流部、町道川内本線沿いでは、毎年「ホテルのページェント」が催され、里山の自然環境保全が求められているエリアとなっています。

③公共施設整備状況

【公共建築物】：味明地区の「ふれあいセンター21」が地域の中心的施設となっている。

- ・地域内のコミュニティ活動の拠点施設として味明地区に「ふれあいセンター21」が設置され、地域の中心的機能を担っています。また 5 地区にはそれぞれ公民館分館が設置されています。
- ・味明地区の町営住宅田布施団地は、2020 年に廃止しました。

【公共下水道】：羽生地区の既存集落のみが、公共下水道区域となっている。

- ・公共下水道区域は、羽生地区の（一）竹谷大和線に沿った丘陵部の集落部分のみとなっており、それ以外の区域は、戸別合併処理浄化槽による環境整備地区となっています。

④住民意向

●居住環境

61.1%が「住みやすい」、65.7%が「住み続けたい」と感じています。

- ・「やや住みやすい」と「とても住みやすい」合わせて61.1%が「住みやすい」と感じています。「住みやすい」と感じている結果は、町内平均（60.2%）とほぼ同水準です。
- ・「今後も住み続けたい」と「どちらかといえば住み続けたい」合わせて65.7%が「住み続けたい」と感じています。これは町内平均（69.4%）をやや下回っています。

●農地のあり方

「転用農地を決め秩序ある土地利用形成」38.9%が最も多くなっています。

- ・工業系土地利用が顕著な地域ですが、「ニーズに応じて積極的に転用を進めるべき」は26.4%と町内平均30.8%を下回っており、反対に「生活利便性を高める施設に活用」が30.6%と町内平均21.3%を上回っています。
- ・産業用土地利用より生活利便性を高める土地利用としての農地活用を望む意向がより強いものと考えられます。

●里山のあり方

「生活利便性を高める施設に活用」46.4%が最も多くなっています。

- ・これは、町内平均41.9%を上回っています。
- ・反対に「ニーズに応じて積極的に転用を進めるべき」は26.1%と町内平均31.2%を下回っており、「農地のあり方」と同様な意向と考えられます。

●魅力的景観

魅力的な景観・保存すべき景観について、「里地・里山景観」が23.5%と最も多くなっています。

- ・これは、町内平均19.6%を上回っています。
- ・次いで「吉田川の河川景観」が21.8%となっており、町内平均24.1%とほぼ同水準となっています。

●将来像

「日常生活が便利な地区」が31.8%と最も多くなっています。

- ・次いで「都市基盤の整備」が27.3%となっていますが、これらはいずれも町内平均を上回っています。

(2) まちづくりの方針

地域の課題を踏まえた、まちづくりの目標を設定します。

●まちづくりのテーマ

適切な土地利用管理による住環境の保全と景観を大切にする地域づくり

①土地利用の方針

<工業等>

- ・産業拠点に位置付けた（主）大和松島線沿道地区は、「自動車関連産業」や「高度電子機械産業」等を企業誘致する工業集積地域を形成します。また産業拠点（エコファクトリー）を中心として、環境に配慮した計画的な企業誘致、産業集積を図ります。
- ・幹線道路沿道から奥部にある里山は、沿道から視認できない工場利用や土砂採取地などの大規模な土地利用が点在しています。特に東日本大震災以降、メガソーラー開発の増大が顕著となってきたことから、里地・里山の保全に向けた大規模開発を抑制するための開発の事前段階において、開発指導要綱による土地利用調整を積極的に進めるとともに新たな調整の仕組みについて検討を進めます。
- ・開発後については、開発者と町で公害防止協定を締結し、周辺環境への影響や災害時の対応について予め協議を行っていきます。特に、大規模な工場跡地や資材置場、土砂採取後の土地などは、利活用されていない低未利用地が見られますが、これらは適切な土地管理が可能となるように継続的にモニタリングに努めます。また、土地所有者や施設管理者に管理の適正化を働きかけ、土砂採取地の緑地復元等についてもモニタリングを進めます。

<既存集落>

- ・ふれあいセンター21 を生活拠点とした、集落保全地域を形成します。既存のコミュニティを維持しながら、空き地・空き家バンクを利用した新規住民の受け入れを進めます。
- ・需要に応じた計画的かつ優良な住宅地に限り、農地から住宅へ土地利用転換の誘導を図ります。

②地域基盤施設の方針

<道路>（『大郷町復興再生ビジョン』2020年6月）

- ・町道の中長期的な整備計画の検討を進めますが、当面は令和元年東日本台風被害からの復旧整備事業を優先して取り組みます。
- ・『大郷町復興再生ビジョン』による、本地域の2022年3月までに完了予定の事業は、以下のとおりです。

<町道復旧整備計画> 不来内横沢線(不来内)、川内本線(川内)、長福寺東成田線(川内)、中村川内線(川内)

＜河川＞（『大郷町復興再生ビジョン』2020年6月）

- ・『大郷町復興再生ビジョン』による、本地域の2022年3月までに完了予定の事業は、以下のとおりです。

＜河川復旧整備計画＞ 味明川(味明、川内)、安戸川(川内)

＜上下水道＞

- ・『公共下水道全体計画』（2017年10月）を見直し、羽生中ノ町等（町全体で合計5.4ha）を下水道区域として追加しました。
- ・羽生地区については、2025年までに「大郷町流域関連特定環境保全公共下水道」の整備を進めます。
- ・公共下水道以外の区域については、自然環境への負荷の低減や生活環境の改善を図るため、合併処理浄化槽の普及を推進します。
- ・県による「3水道事業一体化」構想については、宮城県水道事業広域連携検討会大崎地域部会において検討を進めます。

＜公園等＞

- ・文化財に指定されている築館公園は、道具点検や草刈り等の業務を委託することにより、安全管理や環境維持をしていきます。また、地域住民が花木を植樹するなど、継続的に町民活動を支援できるよう検討を進めます。
- ・古墳がある勢見ヶ森公園や、城址である築館公園や花楸公園は、大郷の田園風景が一望できる眺望拠点であるとともに、大郷の歴史的資源でもあり、これらの歴史を掘り起こし、ストーリー性を持たせてネットワーク化を図るなど、一層の機能強化に努めます。

＜公営住宅＞

- ・老朽化した田布施団地は今後解体し、土地は普通財産（賃借や売買等の私権の設定が可能）として管理していることから、今後の取り扱いについて検討を進めます。

＜公共建築物＞（『第2次・大郷町公共施設等個別整備計画』2020年6月）

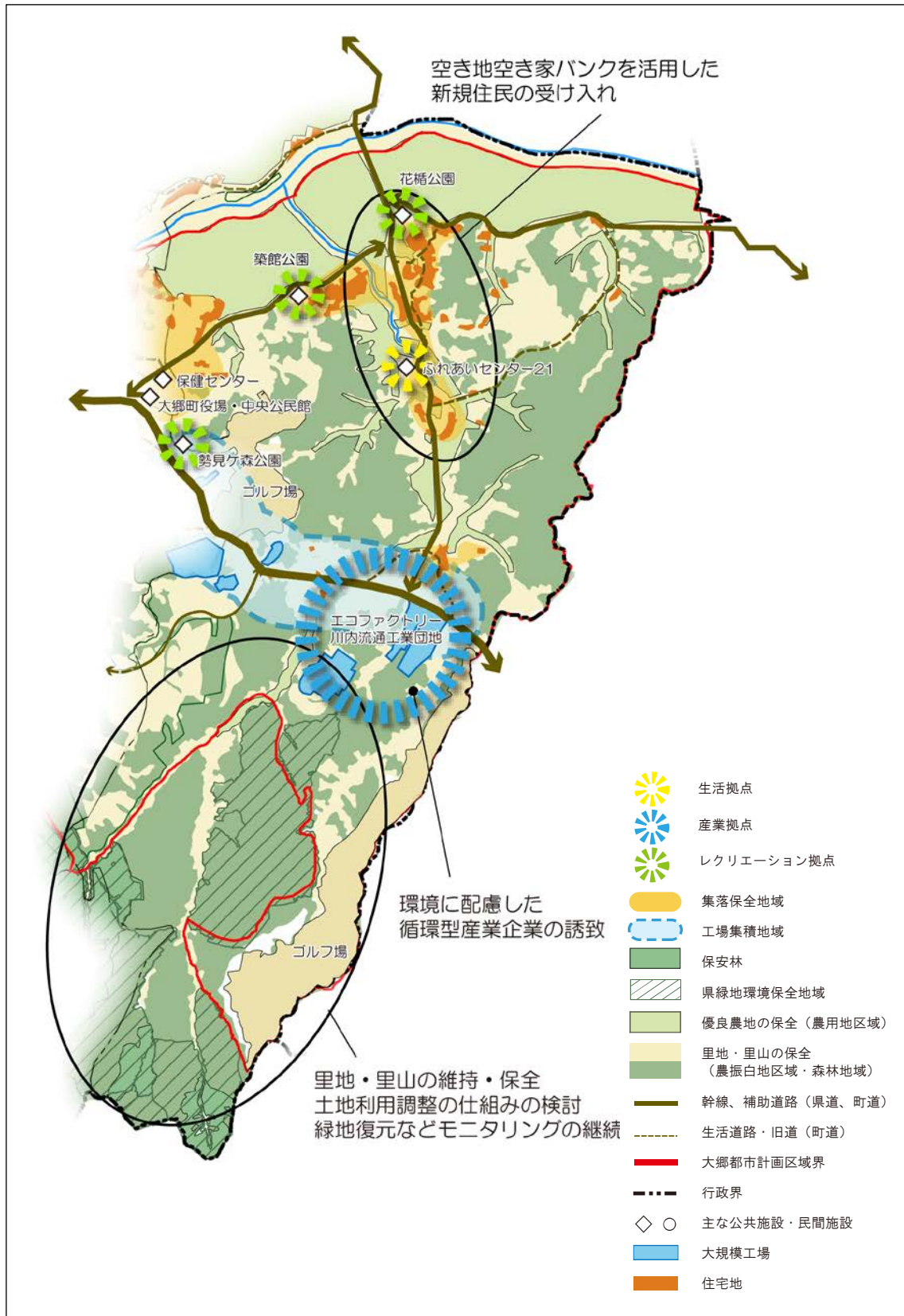
- ・「ふれあいセンター21」は、地域コミュニティの生活拠点として中心的な役割を担うとともに、今後は災害時の避難拠点としても機能できるように検討を進めます。
- ・地区ごとの「公民館分館」（羽生分館、山崎分館、味明分館）については、計画的に早期の修繕を進めます。老朽化した分館は、地元の資金準備ができた段階で改築を進めます。（不来内分館、川内分館は2012年に大規模改修実施済み）
- ・次の施設については譲渡する方向で検討を進めます。

旧田布施駐在所(当面従来どおり貸付とするが、計画期間内の譲渡を検討)

③環境景観形成の方針

- ・本地域南端部（都市計画区域外）は、保安林及び県緑地環境保全地域が指定され法的に保全されたまとまった山林であり、引き続き既存法に即した保全、維持管理を実施します。
- ・保全系の規制がない農振白地地域や無規制エリアは、農振白地地域の土砂採取地やメガソーラー発電開発等が増大した経緯を踏まえ、これ以上の散発的な（非建築的）大規模開発を抑制し、里地・里山の保全を図るための土地利用調整の仕組みを検討します。
- ・町民アンケートでは、「魅力的な景観」として「吉田川の河川景観」、「里地・里山景観」が挙げられており、吉田川を含む田園風景である優良農地の保全や貴重な自然環境である里地・里山の保全を進めます。
- ・ゲンジボタル、ヘイケボタル、ヒメボタルの生息地として観光地にもなっていますが、一部環境や生態系が損なわれている場所があるため、これ以上損なわれないよう森林等の維持・保全に努めます。

図 5.8 大谷東部地域の方針図



2-2 大谷西部地域

(1) 現状と課題

①人口推移

【地域人口】：人口増加・維持している鶉崎、中村地区と人口減少率が町内平均を上回る土橋、東成田地区で人口推移が二極化している。

- ・直近 11 年間の地域人口は、3.1%減少（81 人減）で、町内の減少率 12.1%を大幅に下回っており、町内の中で減少幅が小さく人口を維持している地域です。
- ・減少率、減少人数（実数）ともに最も大きいのは、土橋地区 18.6%減少（65 人減）となっています。
- ・鶉崎地区では 26%増加（77 人増）で、町内で唯一人口増加の地区となっています。これは町営住宅高崎団地及び「恵の丘」分譲地による人口増加が大きな要因として考えられます。
- ・増減率をみると、鶉崎及び中村地区は人口増加・維持をしていますが、土橋、東成田地区では、町内平均-12.1%を上回る人口減少率を示しており、既成市街地部とそれ以外の地区で人口推移の傾向が二極化していることが分かります。

図 5.9 大谷西部地域の人口推移

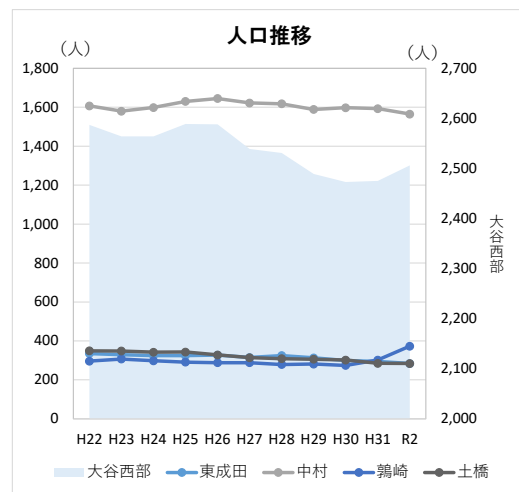


表 5.6 大谷西部地域の人口推移

人口 (人)	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	増減率 R2/H22	増加数 R2-H22	空き家 R2
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2			
東成田	335	329	325	325	327	315	325	313	299	295	284	-15.2%	-51	4戸
中村	1,607	1,580	1,599	1,630	1,645	1,622	1,618	1,589	1,598	1,593	1,565	-2.6%	-42	20戸
鶉崎	296	307	298	291	288	288	279	281	274	302	373	26.0%	77	1戸
土橋	349	348	342	343	328	314	309	306	302	285	284	-18.6%	-65	1戸
小計	2,587	2,564	2,564	2,589	2,588	2,539	2,531	2,489	2,473	2,475	2,506	-3.1%	-81	26戸
大郷町計	9,101	8,985	8,858	8,800	8,686	8,559	8,478	8,324	8,204	8,089	7,999	-12.1%	-1,102	129戸

【地域世帯数】：世帯数減は土橋地区のみでその他の3地区は世帯増加となっている。

- ・直近11年間の地域世帯数は、17.8%増加となっています。町営住宅高崎団地及び「恵の丘」分譲地による世帯増で、鶉崎地区が町内で最大の増加率55.3%増(42世帯増)となっています。世帯増加実数では、中村地区が74世帯(15.2%世帯)増となっています。
- ・世帯数が減少したのは土橋地区のみであり、3.1%(3世帯)減となっています。

図 5.10 大谷西部地域の世帯数

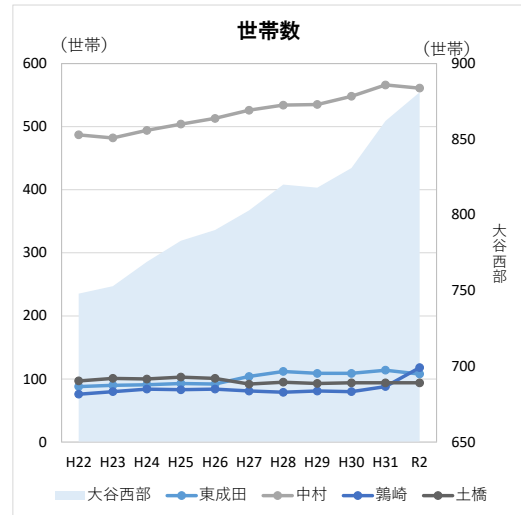


表 5.7 大谷西部地域の世帯数

世帯数 (世帯)	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	増減率	増減数	世帯当たり人員	
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R2/H22	R2-H22	H22	R2
東成田	88	90	91	93	92	104	112	109	109	114	108	22.7%	20	3.8	2.6
中村	487	482	494	504	513	526	534	535	548	566	561	15.2%	74	3.3	2.8
鶉崎	76	80	84	83	84	81	79	81	80	88	118	55.3%	42	3.9	3.2
土橋	97	101	100	103	101	92	95	93	94	94	94	-3.1%	-3	3.6	3.0
小計	748	753	769	783	790	803	820	818	831	862	881	17.8%	133	3.5	2.8
大郷町計	2,610	2,618	2,643	2,681	2,704	2,727	2,744	2,751	2,769	2,794	2,798	7.2%	188	3.5	2.9

【高齢化率】：4地区の中で最も高齢化率が低い地域となっている。

- ・2020年3月末の地域高齢化率は、31.2%と町内で最も低い地域です。
- ・高齢化率が最も高いのは土橋地区であり38.0%と40%に近づいています。また、地域内で高齢化率が最も低いのは中村地区であり、29.5%と30%を切っています。

図 5.11 大谷西部地域の高齢化率

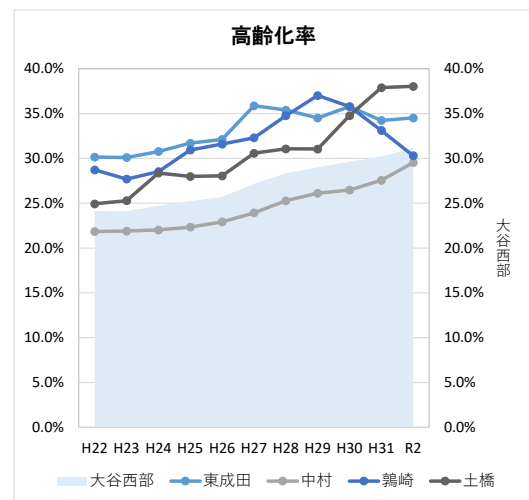


表 5.8 大谷西部地域の高齢化率

高齢化率	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	増減率	増加数
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R2/H22	R2-H22
東成田	30.1%	30.1%	30.8%	31.7%	32.1%	35.9%	35.4%	34.5%	35.8%	34.2%	34.5%	-3.0%	-3
中村	21.8%	21.9%	22.0%	22.3%	22.9%	23.9%	25.3%	26.1%	26.5%	27.6%	29.5%	31.6%	111
鶉崎	28.7%	27.7%	28.5%	30.9%	31.6%	32.3%	34.8%	37.0%	35.8%	33.1%	30.3%	32.9%	28
土橋	24.9%	25.3%	28.4%	28.0%	28.0%	30.6%	31.1%	31.0%	34.8%	37.9%	38.0%	24.1%	21
小計	24.1%	24.1%	24.7%	25.2%	25.7%	27.2%	28.3%	29.0%	29.6%	30.2%	31.2%	25.2%	157
大郷町計	28.0%	27.7%	28.2%	28.9%	29.8%	30.9%	32.4%	33.7%	35.0%	36.2%	37.1%	16.5%	420

【若年人口率】：町内で最も若年人口率が高い地域（15%以上）となっている。

- ・2020年3月末の地域若年人口率は、14.2%と町内平均の若年人口率 11.1%を上回っており、町内で最も高い地域となっています。
- ・地域内で若年人口率が最も高いのは中村地区の 16.1%で、これは本町で最も高い数値となっています。
- ・若年人口率が 15%を超えているのは、町内では中村地区と鶉崎地区（15.5%）のみとなっています。
- ・若年人口率が地域内で最も低いのは東成田地区であり、6.7%まで落ち込んでいます。

図 5.12 大谷西部地域の若年人口率

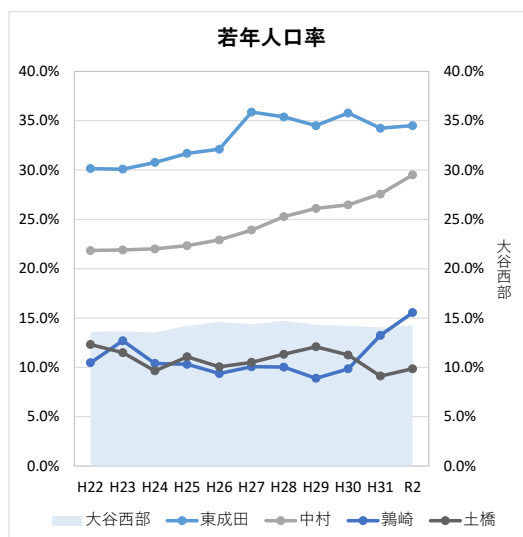


表 5.9 大谷西部地域の若年人口率

若年人口率	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	増減率	増加数
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R2/H22	R2-H22
東成田	10.4%	9.4%	8.6%	8.9%	9.5%	9.2%	9.5%	9.3%	8.4%	7.1%	6.7%	-45.7%	-16
中村	15.1%	15.2%	15.9%	16.6%	17.4%	16.9%	17.2%	16.7%	16.6%	16.4%	16.1%	3.7%	9
鶉崎	10.5%	12.7%	10.4%	10.3%	9.4%	10.1%	10.0%	8.9%	9.9%	13.2%	15.5%	87.1%	27
土橋	12.3%	11.5%	9.6%	11.1%	10.1%	10.5%	11.3%	12.1%	11.3%	9.1%	9.9%	-34.9%	-15
小計	13.6%	13.7%	13.5%	14.2%	14.6%	14.4%	14.7%	14.3%	14.2%	14.1%	14.2%	1.4%	5
大郷町計	11.1%	11.1%	11.0%	11.4%	11.4%	11.4%	11.6%	11.3%	11.2%	11.1%	11.1%	-12.3%	-124

②土地利用

【農地】：吉田川以南の平地部、滑川の谷筋平地部は、まとまった優良農地として利用・保全されている。

- ・吉田川以南の平地部及び吉田川の支流滑川が作る谷筋平地部は、ほ場整備等により農業基盤整備が施工され、まとまった優良農地として利用されています。また、農用地の規制により保全され、原則として農業利用以外の用途への転用は制限されています。

【既存集落】：（主）大和松島線と（主）利府松山線の交差点部を中心に公共施設群が集中立地し、町の中心部を形成している。

- ・既存集落は、吉田川低地部と接する丘陵部の（主）大和松島線沿道部及び町道原町山崎線、愛宕下鍋釣線の沿道に沿って分布しています。
- ・（主）大和松島線と（主）利府松山線の交差点部を中心に公共施設がまとまって立地し、町の中心部を形成しています。
- ・これら中心部を有する中村地区で最も多くの空き家が生じつつあります。

【工業・流通系】：滑川に沿って中規模な工場が立地し、里山に土砂採取地、太陽光発電施設が点在している。

- ・滑川に沿った町道大日向線沿道に中規模な工場が立地しています。
- ・東成田地区の（主）利府松山線沿道及び町道長福寺東成田線沿道地区では、土砂採取地、太陽光発電施設が点在しています。このような土地利用は、都市計画区域内及び規制の緩い農振白地地域ですが、非建築的土地利用であるとともに保安林、県自然環境保全地域、県緑地環境保全地域等の保全系の規制が適用されていない山林部となっているためと考えられます。このことから、自然環境保全と非建築的土地利用の適正なバランスを取るための新たな土地利用調整の仕組みについて検討が必要です。

【自然環境】：本地域南端部は、法的に保全されたまとまりのある山林となっている。

- ・地域南端部は、都市計画区域外ではありますが、保安林及び県自然環境保全地域、県緑地環境保全地域が適用され、自然林を含む法的に保全されたまとまりのある山林となっています。

③施設整備状況

【公共建築物】：東西南北の主軸道路の交差点部に町有地がまとまっており、町内外の利用施設群が集中立地している。今後、これらの公共施設群の再編が進められる計画となっている。

- ・（主）大和松島線と（主）利府松山線の交差点部を中心に、「道の駅」をはじめとした町全体の交流機能施設（文化集会施設、スポーツ施設、産業施設、公園施設等）が集約立地しており、「まちの顔」を形成しています。これらの立地は町有地であり、町有地がまとまっているエリアでもあります。今後、「公共施設整備計画」に基づき公共施設の再編が計画されています。
- ・町内唯一の小学校、児童館、給食センターなど、比較的町の教育施設は中村地区に集中しています。また、本地域の4地区には、それぞれ公民館分館が設置されています。
- ・中村地区には希望の丘団地、山下団地の町営住宅があり、隣接する鶉崎地区に新設の高崎団地が立地しています。
- ・町道東成田新田線沿道には「支倉常長メモリアルパーク」や「夢実の国」、町道えにしのみさと線には「えにしホースパーク」や「パストラル縁の郷」などのレクリエーション系施設が立地していますが、各々の施設が単独に離散的に点在しています。

【公共下水道】：中村地区、鶉崎地区の既存集落は公共下水道区域となっている。

- ・中村地区の農地以外のほとんどが公共下水道区域となっています。鶉崎地区では、農村集落のまとまり単位で下水道区域に加えられています。それ以外の区域は、戸別合併処理浄化槽の対象区域となっています。

④住民意向

●居住環境

65.9%が「住みやすい」、68.9%が「住み続けたい」と感じています。

- ・「やや住みやすい」と「とても住みやすい」を合わせた65.9%が「住みやすい」と感じています。
- ・町内平均(60.2%)を上回り、4地域の中では最も高い数値となっています。また、「今後も住み続けたい」と「どちらかといえば住み続けたい」を合わせた68.9%が「住み続けたい」と感じています。これは、町内平均(69.4%)とほぼ同水準です。

●農地のあり方

「転用農地を決め秩序ある土地利用形成」が半数以上の55.8%となり、最も多くなっています。

- ・次いで「ニーズに応じて積極的に転用を進めるべき」は25.6%と町内平均30.8%を下回っています。
- ・一方、「生活利便性を高める施設に活用」が16.3%と町内平均21.3%を下回っています。町の中心部として既に一定集積があることから、生活利便性を高めることより、秩序ある土地利用形成に資する農地活用を望む意向がより強いものと考えられます。

●里山のあり方

「生活利便性を高める施設に活用」が最も多く39.5%（町内平均41.9%）となっています。

- ・次いで「ニーズに応じて積極的に転用を進めるべき」が30.2%（町内平均31.2%）となっています。一方で、「原則里山を保全してほしい」が25.6%（町内平均20.8%）と町内平均を上回り、4地域の中で最も高い地域です。

●魅力的景観

魅力的な景観・保存すべき景観について、「吉田川の河川景観」が31.3%と最も高く、全町平均より高くなっています。

- ・次いで「里地・里山景観」が28.1%と町内平均を上回っています
- ・その分「船形連峰の眺望景観」が町内平均22.5%を下回っています。

●将来像

「都市基盤の整備」が36.8%と最も多く町内平均26.0%を大きく上回っています。

- ・次いで「日常生活が便利な地区」が23.7%となっていますが、既に一定集積があることから、利便性については町内平均27.2%を下回っています。

図 5.13 大谷西部地域の現況土地利用図



(2) まちづくりの方針

地域の課題を踏まえた、まちづくりの目標を設定します。

●まちづくりのテーマ

中心拠点の機能強化によるにぎわいのある地域づくり

①土地利用の方針

<中心拠点>

- ・(主) 大和松島線と(主) 利府松山線の交差部周辺地域は、道の駅などの集客施設や文化施設、スポーツ施設、飲食店などの生活利便施設が集積し、本町の顔となる中心拠点です。また、生活を豊かにする拠点を形成していることから、まちの魅力促進地域として、今後もさらなるにぎわいと交流の空間を創出する拠点機能の強化を図ります。
- ・まちの魅力促進地域は、公共建築施設のみならず、野球場やテニスコート、駐車場などのオープンスペース系の施設が集積しており、それらを含めまとまった公有地が連担する地区です。今後は、「役場移転」や「町民体育館」などの「譲渡等」を視野に入れた、公共施設及び公共用地の再編による機能複合化・強化を図り、行政拠点としてのあり方についても検討していきます。

<住宅>

- ・近年、希望の丘団地や高崎団地などの行政による住宅、宅地整備や民間による住宅供給により、鶉崎、中村地区では人口増加も見られます。旧道筋の既存市街地も含め中心拠点の機能集積の外周部は新規住宅誘導地域として、民間の宅地整備など定住を促進する住居系の計画的な土地利用を推進します。
- ・既存集落を中心とした土橋、東成田地区の集落保全地域では、急速な人口減少、少子高齢化が進んでいることから、既存のコミュニティを維持しつつ、空き地・空き家バンクを利用した新規住民の受け入れを進めます。また、需要に応じた計画的かつ優良な住宅地に限り、農地から住宅へ土地利用転換の誘導を図ります。
- ・集落保全地域及び新規住宅誘導地域においては、開発指導要綱等に基づき、太陽光発電事業の開発を抑制していきます。

②地域基盤施設の方針

<道路> (『大郷町復興再生ビジョン』2020年6月)

- ・町道の中長期的な整備計画の検討を進めますが、当面は令和元年東日本台風被害からの復旧整備事業を優先して取り組みます。
- ・『大郷町復興再生ビジョン』による、本地域の2022年3月までに完了予定の事業は、以下のとおりです。

<町道復旧整備計画>大日向線(東成田)、長松沢中線(東成田)、東成田三倉沢線(東成田)、中村鶉崎線(鶉崎)、土橋勤兵衛線(土橋)

<河川> (『大郷町復興再生ビジョン』2020年6月)

- ・『大郷町復興再生ビジョン』による、本地域の2022年3月までに完了予定の事業は以下のとおりです。

<河川復旧整備計画>西光寺川(東成田)、滑川(東成田)

【鶉崎(袋)地区】

- ・吉田川の堤防凹凸部の早期補修、及び早期の河道掘削を関係機関に要請していくものとします。
- ・吉田川上流地域からの流入水の抑制と中村排水機場の処理能力向上、県管理河川である滑川の改修等についても関係機関に強く要請していきます。

<上下水道>

- ・『公共下水道全体計画』(2017年10月)により、高崎団地等(町全体で合計5.4ha)を下水道処理区域として追加しました。
- ・『大郷都市計画区域の整備、開発及び保全の方針』(2018年3月/宮城県)に基づき、中村、土橋、鶉崎地区については、2025年までに「大郷町流域関連特定環境保全公共下水道」の整備を進めます。
- ・公共下水道以外の区域については、自然環境への負荷の低減や生活環境の改善を図るため、戸別合併処理浄化槽の普及を推進します。
- ・県による「3水道事業一体化」構想については、宮城県水道事業広域連携検討会大崎地域部会において検討を進めます。

<公園等>

- ・「郷郷ランド」は、遊具の経年劣化を調査し、改修または新設を検討します。
- ・「支倉常長メモリアルパーク」は、住民と行政の協働により歴史的施設として情報発信を行い、交流人口の拡大に努めます。
- ・「パストラル縁の郷」は、「長寿命化」を図りつつ、経営改善のため、経営主体を民間資本に移行することも視野に入れ検討を進めます。具体的には指定管理者と連携を図り、インターネット活用による集客推進、旅行会社活用による集客推進、オリジナル商品開発促進、地域観光施設連携商品開発等を検討します。

＜公営住宅＞

- ・老朽化した「東沢団地」は廃止し、土地は普通財産（賃借や売買等の私権の設定が可能）として管理していることから、今後の取り扱いについて検討を進めます。
- ・「希望の丘団地」、「山下団地」、「高崎団地」については、適切な維持管理に努めます。

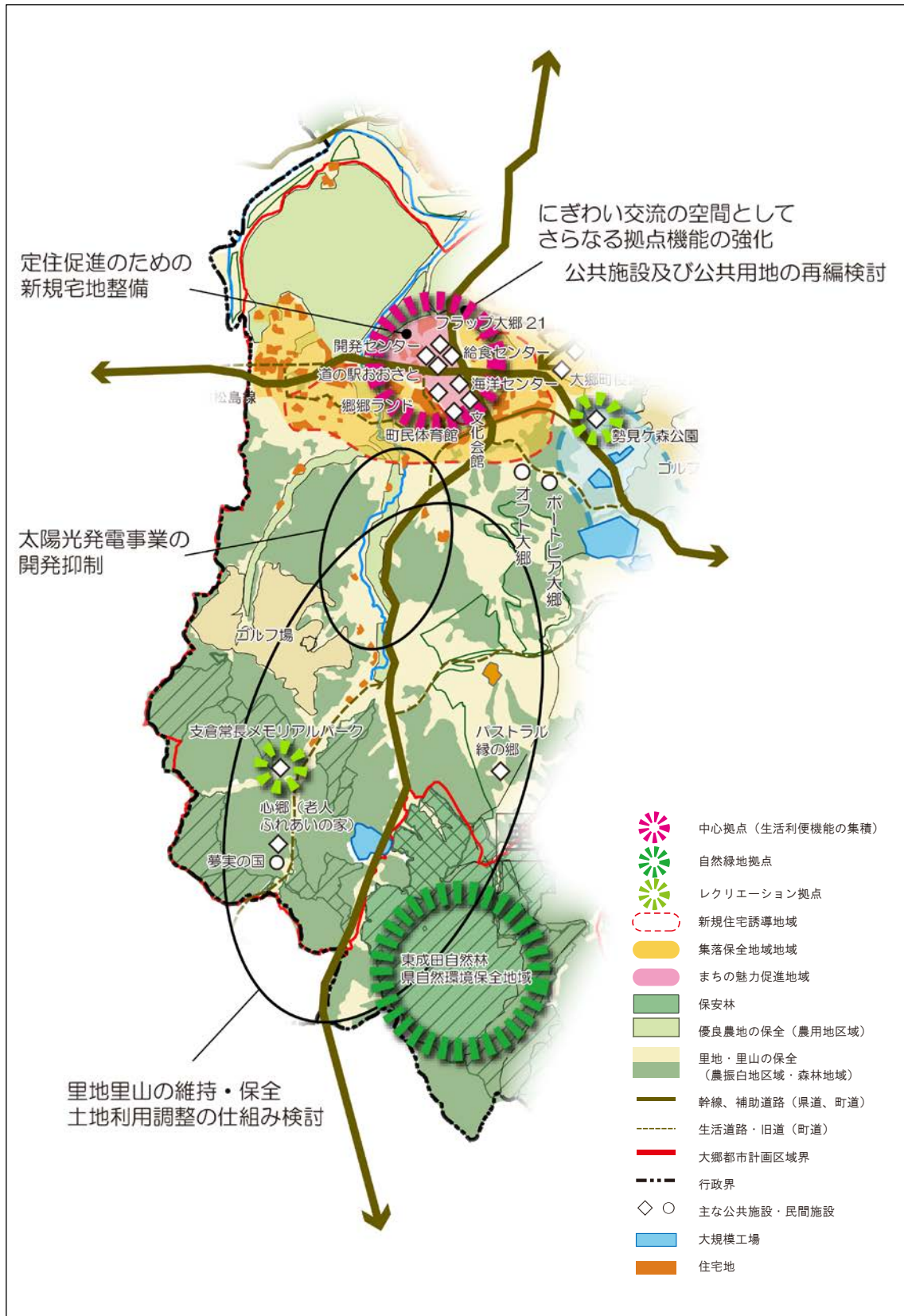
＜公共建築物＞（『第2次・大郷町公共施設等個別整備計画』2020年6月）

- ・「旧歯科診療所」については「譲渡」、町民体育館については「譲渡」または「取り壊し」の方向で検討を進めます。
- ・「B & G海洋センター」、「フラップ大郷21」については「継続検討」とし、必要な改修・補修を計画的に実施していきます。
- ・「文化会館」、老人ふれあいの家「心郷」、「住民バス事務所等」、「ふるさとプラザ物産館」「開発センター」については「長寿命化」を図ります。なお、「開発センター」の施設全体の利用については、総合的な見直しを行った上で柔軟に対応します。
- ・「大郷小学校」は、長寿命化計画策定済みであり、GIGA スクール構想に基づくネットワーク構築を行います。
- ・「学校給食センター」も「長寿命化」を図り、施設の点検と予防的な改修工事を計画的に実施していきます。なお、「児童館」は2017年に建設された新しい施設であることから、適切な維持管理に努めます。
- ・地区ごとの「公民館分館」については、経年劣化の状況を定期的に把握し、計画的に早期の修繕を進めるものとしています。老朽化した分館は、各行政区と協議し、大規模改修または更新を行います。（鶉崎分館、土橋分館は旧耐震ですが、2012年に大規模改修実施済みです。）

③環境景観形成の方針

- ・本地域南端部（都市計画区域外）は、保安林及び県緑地環境保全地域が指定され法的に保全されたまとまった山林であり、引き続き既存法に即した保全、維持管理を実施します。
- ・保全系の規制がない農振白地地域や無規制エリアは、農振白地地域の土砂採取地が増大した経緯を踏まえ、これ以上の散発的な（非建築的）大規模開発を抑制し、里地・里山の保全を図るための土地利用調整の仕組みを検討します。
- ・町民アンケートでは、「魅力的な景観」として「吉田川の河川景観」、「里地・里山景観」が挙げられており、吉田川を含む田園風景である優良農地の保全や貴重な自然環境である里地・里山の保全を進めます。

図 5.14 大谷西部地域の方針図



2-3 粕川地域

(1) 現状と課題

①人口推移

【地域人口】：人口推移は、町内平均の人口減少率 12.1%と同程度の減少率（丸山、石原地区）、その水準の半分の 6%程度（長崎、木ノ崎地区）、令和元年東日本台風の影響により約 20%程度減少（中粕川、土手崎地区）の 3 つの特性に分かれている。

- ・直近 11 年間の地域人口は、12.8%減少（248 人減）で、減少率、減少人数（実数）、ともに最も大きいのは中粕川地区 21.8%減少（83 人減）で、次いで土手崎地区 18.2%減（27 人減）となっています。
- ・中粕川地区、土手崎地区はいずれも吉田川平地部に島状に存在する自然堤防地に形成された集落地区で、令和元年東日本台風の集中豪雨による吉田川堤防決壊において、浸水被害を直接受けた地区であることから、その影響が顕著になっています。
- ・木ノ崎地区、長崎地区では減少率が 6%台に留まっています。

図 5.15 粕川地域の人口推移

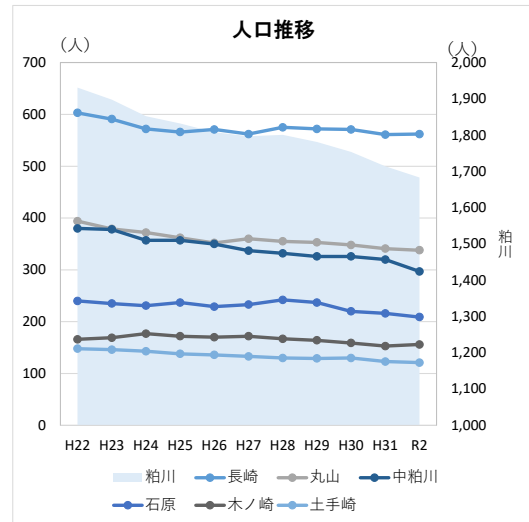


表 5.10 粕川地域の人口推移

人口 (人)	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	増減率 R2/H22	増加数 R2-H22	空き家 R2
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2			
長崎	603	591	572	566	571	562	575	572	571	561	562	-6.8%	-41	10戸
丸山	394	379	372	362	352	360	355	353	348	341	338	-14.2%	-56	8戸
中粕川	380	378	357	357	350	337	332	326	326	320	297	-21.8%	-83	12戸
石原	240	235	231	237	229	233	242	237	220	216	209	-12.9%	-31	1戸
木ノ崎	166	169	177	172	170	172	167	164	159	153	156	-6.0%	-10	5戸
土手崎	148	146	143	138	136	133	130	129	130	123	121	-18.2%	-27	0戸
小計	1,931	1,898	1,852	1,832	1,808	1,797	1,801	1,781	1,754	1,714	1,683	-12.8%	-248	36戸
大郷町計	9,101	8,985	8,858	8,800	8,686	8,559	8,478	8,324	8,204	8,089	7,999	-12.1%	-1,102	129戸

【地域世帯数】：中粕川地区と丸山地区では世帯数の減少が見られるが、それ以外の地区では世帯数は増加している。

- ・直近 11 年間の地域世帯数は、3.9%増加となっています。
- ・増加率が最も大きいのは石原地区の 12.3%（7 世帯）増となっており、世帯増加（実数）では長崎地区が 18 世帯増（9.7%増）となっています。
- ・世帯数が減少したのは中粕川地区と丸山地区ですが、それぞれ 3.7%（4 世帯）減、2.6%（3 世帯減）に留まっています。

図 5.16 粕川地域の世帯数

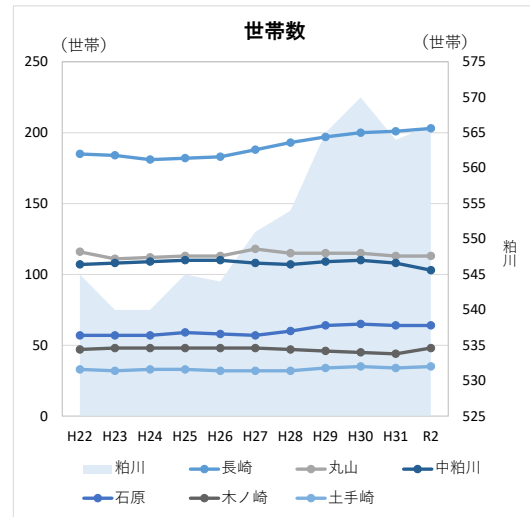


表 5.11 粕川地域の世帯数

世帯数 (世帯)	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	増減率	増減数	世帯当たり人員	
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2			R2/H22	R2-H22
長崎	185	184	181	182	183	188	193	197	200	201	203	9.7%	18	3.3	2.8
丸山	116	111	112	113	113	118	115	115	115	113	113	-2.6%	-3	3.4	3.0
中粕川	107	108	109	110	110	108	107	109	110	108	103	-3.7%	-4	3.6	2.9
石原	57	57	57	59	58	57	60	64	65	64	64	12.3%	7	4.2	3.3
木ノ崎	47	48	48	48	48	48	47	46	45	44	48	2.1%	1	3.5	3.3
土手崎	33	32	33	33	32	32	32	34	35	34	35	6.1%	2	4.5	3.5
小計	545	540	540	545	544	551	554	565	570	564	566	3.9%	21	3.5	3.0
大郷町計	2,610	2,618	2,643	2,681	2,704	2,727	2,744	2,751	2,769	2,794	2,798	7.2%	188	3.5	2.9

【高齢化率】：中粕川地区と土手崎地区は、ほぼ40%の水準（5人に2人が65歳以上の高齢者）に迫りつつある。

- ・2020年3月末の地域高齢化率は35.9%であり、町内平均37.1%を下回っています。
- ・高齢化率が最も高いのは中粕川地区39.7%、次いで土手崎地区38.8%とほぼ40%の水準（5人に2人が65歳以上の高齢者）に迫りつつあります。
- ・地域内で高齢化率が最も低いのは長崎地区31.9%で、大谷西部地域の鶉崎地区、中村地区に次ぐ数値です。

図 5.17 粕川地域の高齢化率

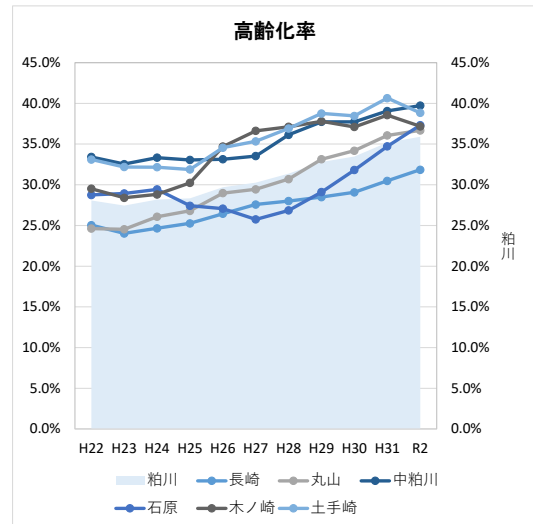


表 5.12 粕川地域の高齢化率

高齢化率	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	増減率	増加数
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R2/H22	R2-H22
長崎	25.0%	24.0%	24.7%	25.3%	26.4%	27.6%	28.0%	28.5%	29.1%	30.5%	31.9%	18.5%	28
丸山	24.6%	24.5%	26.1%	26.8%	29.0%	29.4%	30.7%	33.1%	34.2%	36.1%	36.7%	27.8%	27
中粕川	33.4%	32.5%	33.3%	33.1%	33.1%	33.5%	36.1%	37.7%	37.7%	39.1%	39.7%	-7.1%	-9
石原	28.8%	28.9%	29.4%	27.4%	27.1%	25.8%	26.9%	29.1%	31.8%	34.7%	37.3%	13.0%	9
木ノ崎	29.5%	28.4%	28.8%	30.2%	34.7%	36.6%	37.1%	37.8%	37.1%	38.6%	37.2%	18.4%	9
土手崎	33.1%	32.2%	32.2%	31.9%	34.6%	35.3%	36.9%	38.8%	38.5%	40.7%	38.8%	-4.1%	-2
小計	28.1%	27.4%	28.2%	28.3%	29.7%	30.3%	31.4%	32.8%	33.5%	35.2%	35.9%	11.4%	62
大郷町計	28.0%	27.7%	28.2%	28.9%	29.8%	30.9%	32.4%	33.7%	35.0%	36.2%	37.1%	16.5%	420

【若年人口率】：浸水被害を受けた中粕川地区では、若年人口率が大きく減少し、町内で2番目に低い地区となっている。

- ・2020年3月末の地域若年人口率は、11.6%であり、町内平均11.1%と同水準にあります。
- ・浸水被害を受けた中粕川地区では、若年人口率が5.4%まで落ち込んでおり、町内で2番目に低い地区となっています。また、中粕川地区以外の地区は12~13%程度となっています。

図 5.18 粕川地域の若年人口率

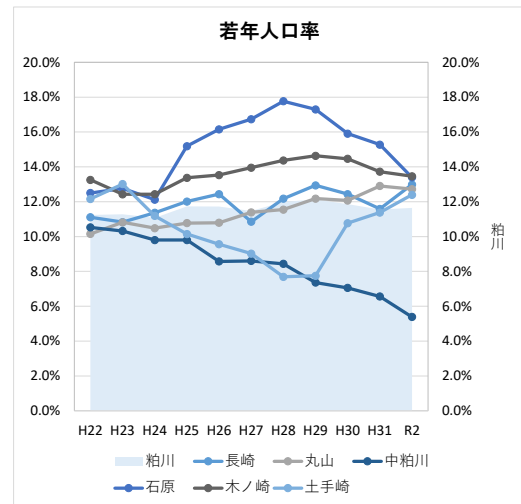


表 5.13 粕川地域の若年人口率

若年人口率	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	増減率	増加数
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2		
長崎	11.1%	10.8%	11.4%	12.0%	12.4%	10.9%	12.2%	12.9%	12.4%	11.6%	13.0%	9.0%	6
丸山	10.2%	10.8%	10.5%	10.8%	10.8%	11.4%	11.5%	12.2%	12.1%	12.9%	12.7%	7.5%	3
中粕川	10.5%	10.3%	9.8%	9.8%	8.6%	8.6%	8.4%	7.4%	7.1%	6.6%	5.4%	-60.0%	-24
石原	12.5%	12.8%	12.1%	15.2%	16.2%	16.7%	17.8%	17.3%	15.9%	15.3%	13.4%	-6.7%	-2
木ノ崎	13.3%	12.4%	12.4%	13.4%	13.5%	14.0%	14.4%	14.6%	14.5%	13.7%	13.5%	-4.5%	-1
土手崎	12.2%	13.0%	11.2%	10.1%	9.6%	9.0%	7.7%	7.8%	10.8%	11.4%	12.4%	-16.7%	-3
小計	11.2%	11.3%	11.1%	11.7%	11.7%	11.5%	12.0%	12.1%	11.9%	11.6%	11.6%	-9.7%	-21
大郷町計	11.1%	11.1%	11.0%	11.4%	11.4%	11.4%	11.6%	11.3%	11.2%	11.1%	11.1%	-12.3%	-124

②土地利用

粕川地区は、吉田川以南の長崎、丸山地区のみ都市計画区域内となっています。

【農地】：吉田川以北の平地部は、まとまった優良農地として利用・保全されている。

- ・吉田川以北の平地部は、ほ場整備等により農業基盤整備が施工され、まとまった優良農地として利用されています。また、農用地の規制により保全され、原則として農業利用以外の用途への転用は制限されています。

【既存集落】：吉田川平地部の北部と南部にある丘陵部と平地部内にある自然堤防地に既存集落が分布している。

- ・既存集落は、吉田川平地部の北部と南部の丘陵部に分かれます。南部の丘陵部は、古くからの農村集落がまとまっています。吉田川北部の丘陵部は、(一) 竹谷大和線に沿って細長く分布しています。
- ・吉田川平地部には、中粕川、土手崎など、比較的まとまった既存集落が自然堤防地にあります。これらの平地部の集落は、令和元年東日本台風の集中豪雨による吉田川堤防決壊により甚大な浸水被害を受けており『大郷町復興再生ビジョン』（2020年6月）に基づき、今後の再生のあり方の検討が行われています。（住家被害：中粕川地区110棟、土手崎地区24棟等）

③施設整備状況

【公共建築物】：吉田川の北部丘陵には福祉系施設、南部丘陵には町役場庁舎や大郷中学校などが立地し、平地部の中粕川地区では浸水被害を受け公共施設の見直しが検討されている。

- ・木ノ崎地区の丘陵端部には、「すくすくゆめの郷こども園」（運営は社会福祉法人へ委託）が立地し、福祉施設の特養「郷和荘」（民間）が立地しています。
- ・長崎、丸山地区の丘陵部には旧来からの農村集落があり、その端部にある町役場、中央公民館、保健センターから丘陵部の尾根筋、町道愛宕下丸山線に沿って、大郷中学校、町営住宅山中団地、長崎分館などが立地しています。
- ・中粕川地区では、浸水被害を受けたことから、老朽化が進む中粕川分館の今後のあり方について検討を進めています。

【公共下水道】：丸山、長崎地区の既存集落地区はほぼ公共下水道区域となっている。

- ・丸山、長崎地区の既存集落地区はほぼ公共下水道区域となっています。
- ・それ以外の区域は、農業集落排水事業及び戸別合併処理浄化槽の対象区域となっています。

④住民意向

●居住環境

62.6%が「住みやすい」、73.5%が「住み続けたい」と感じています。

- ・「やや住みやすい」と「とても住みやすい」合わせて62.6%が「住みやすい」と感じています。
- ・これは町内平均(60.2%)を上回っています。また、「今後も住み続けたい」と「どちらかといえば住み続けたい」合わせて73.5%が「住み続けたい」と感じています。これは町内平均(69.4%)を上回っています。

●農地のあり方

「転用農地を決め秩序ある土地利用形成」が36.3%で最も多いです。

- ・「原則農地保全」10.0%と「ニーズに応じて積極的に転用を進めるべき」35.0%といずれの項目も4地域の中では一番割合が高く、農地のあり方についての意見意向が分散している地域であることが伺えます。

●里山のあり方

「生活利便性を高める施設」が44.3%で最も多いです。

- ・町内平均を上回っているのは「生活利便性を高める施設に活用」44.3%、「ニーズに応じて積極的に転用を進めるべき」34.2%となっています。
- ・反対に「原則里山保全」17.7%と町内平均20.8%を下回っており、積極的に活用していく意向がやや強い地域です。

●魅力的景観

「船形連峰の眺望景観」が29.5%で最も多いです。

- ・次いで「吉田川の河川景観」と「雄大な田園景観」が多い結果となっています。このことから、吉田川平地部を中心とした地域の特性が反映されています。

●将来像

「日常生活が便利な地区」が25.3%と最も多いです。

- ・次いで「都市基盤の整備」が20.3%となっていますが、これらはいずれも町内平均を下回っています。
- ・「里山景観や自然に囲まれた豊かな地区」は13.9%と町内平均10.4%を上回っています。

図 5.19 粕川地域の現況土地利用図



(2) まちづくりの方針

地域の課題を踏まえた、まちづくりの目標を設定します。

●まちづくりのテーマ

復興再生に向けた安心・安全に暮らせる地域づくり

①土地利用の方針

<住宅>

【吉田川以南 長崎、丸山地区】

- ・大郷中学校や公営住宅等公共公益施設が集積している立地環境を活かし、旧道筋の既存市街地は集落保全地域として推進します。

【吉田川以北 中粕川、土手崎地区】（『大郷町復興再生ビジョン』2020年6月）

i) 中粕川地区

- ・堤防改修等により安全度は高くなりますが、より安全度の高い地域とするため、再開発的な視点に立ち、国や県の補助事業を活用しながら、以下の視点から復興まちづくりを進めていきます。

①内水氾濫時に安全に指定避難所まで避難できる避難路の整備

②防災拠点整備（拠点施設、防災広場など）

③現地再建希望者のための嵩上宅地の整備

ii) 土手崎地区

- ・堤防改修により越流に対する危険性は低下することが予想されますが、堤体の老朽化が地区民から指摘されており、地区民の避難のあり方について見直しを図ると共に、「安心して暮らしていける生活環境の確保の観点から、吉田川の河川整備計画の動向を注視しながら、中長期的な視点で集落との話し合いを継続していく」ものとしします。

【吉田川以北 木ノ崎、石原地区】

- ・丘陵部の既存集落は、既存のコミュニティを維持しつつ、空き地・空き家バンクを利用した新規住民の受け入れを進めます。

<行政拠点>

- ・「第2次・大郷町公共施設等個別整備計画」（2020年6月）では、老朽化が進む役場庁舎は、「長寿命化」及び「移転」と位置付けられています。このことから、庁舎建設基金条例による積立基金などの財政面及び防災や利便性などあらゆる面での検討を進めます。
- ・このような行政機能の中心的機能の再編が検討される中で、既存の公有地や各機能施設のあり方の見直しも検討していきます。

＜農業拠点＞

- ・現在、30a 区画でほ場整備されていますが、大区画ほ場にするために施設の老朽化及び今後の農業を見通した上で、前川地区についてはほ場再整備の準備を進めています。

②地域基盤施設の方針

＜道路＞（『大郷町復興再生ビジョン』2020年6月）

- ・町道の中長期的な整備計画の検討を進めますが、当面は令和元年東日本台風被害からの復旧整備事業を優先して取り組みます。
- ・『大郷町復興再生ビジョン』による、本地域の2022年3月までに完了予定の事業は、以下のとおりです。

＜町道復旧整備計画＞海老沢線(丸山)、下り松線(中粕川)、中粕川線(中粕川)、中粕川東線(中粕川)

＜河川＞（『大郷町復興再生ビジョン』2020年6月）

- ・同様に『大郷町復興再生ビジョン』による、本地域の2022年3月までに完了予定の事業は、以下のとおりです。
- i) 土手崎・三十丁地区
 - ・吉田川の堤防凹凸部の補修工事が順次着工
 - ・河道掘削の早期実施及び吉田川の河川整備計画の見直しにあわせた前川機場の能力向上についても関係機関に要請
- ii) 中粕川地区
 - ・吉田川の決壊箇所の堤防改修と上流部の堤体強化

＜上下水道＞

- ・公共下水道以外の区域については、自然環境への負荷の低減や生活環境の改善を図るため、戸別合併処理浄化槽の普及を推進します。
- ・県による「3水道事業一体化」構想については、宮城県水道事業広域連携検討会大崎地域部会において検討を進めます。

＜公営住宅＞

- ・山中団地については、適切な維持管理に努めます。

＜公共建築物＞（『第2次・大郷町公共施設等個別整備計画』2020年6月）

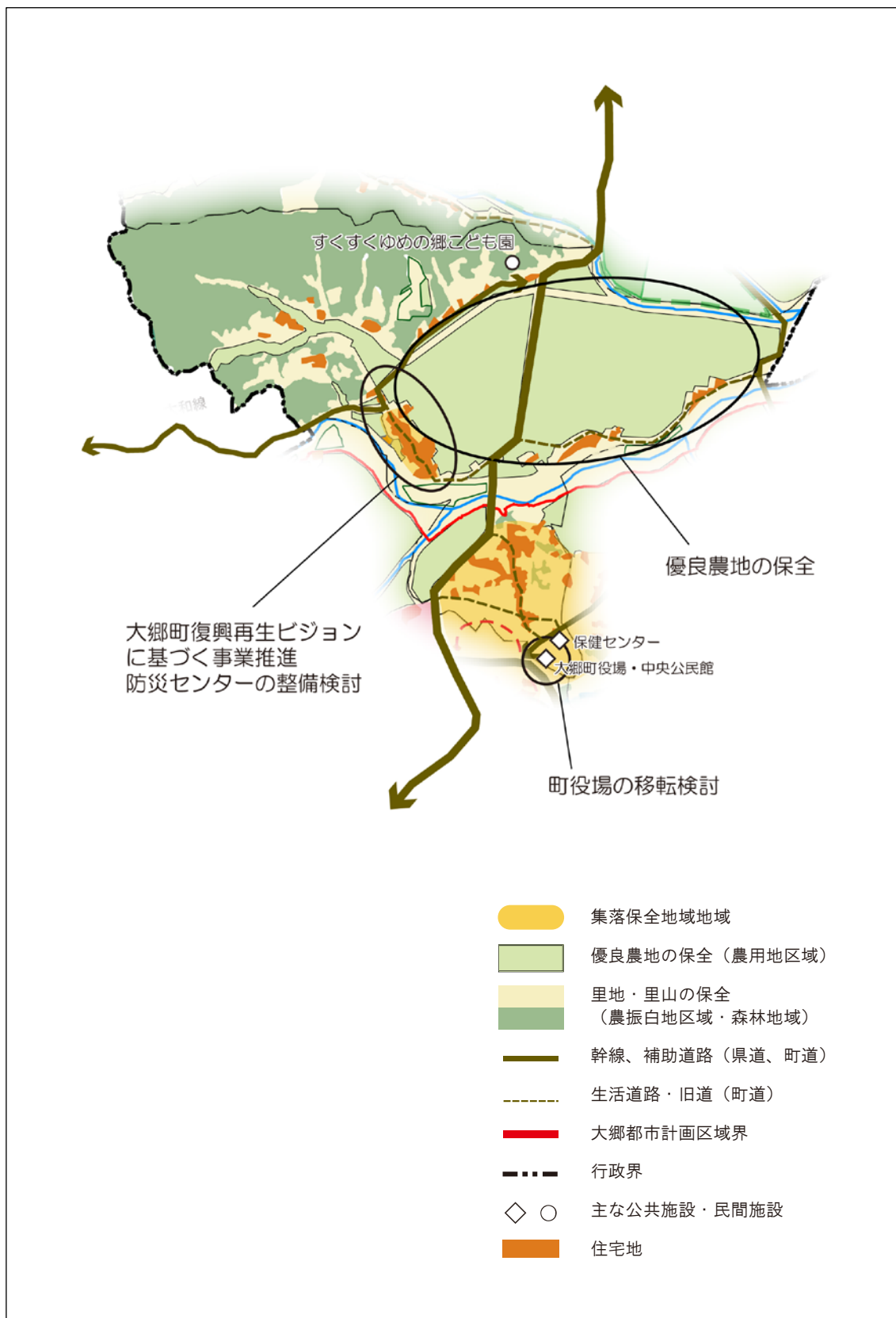
- ・役場庁舎は、「長寿命化」により耐用年数を延長しつつ、並行して「移転」に向けた検討をはじめます。
- ・中央公民館は「長寿命化」、「移転」、「取り壊し」を総合的に判断し、将来的に代替機能を果たせる他施設の整備計画と合わせて計画的に実施していきます。
- ・保健センター、大郷中学校は、「長寿命化」とし、予防的な改修工事を計画的に実施していきます。なお、「大郷中学校」は、長寿命化計画は策定済みであり、GIGAスクール構想に基づくネットワーク構築を行います。

- ・その他「民間貸付施設等」については、『第2次 大郷町公共施設等個別整備計画』に基づき順次、「譲渡」、「継続検討」、「移転」、「長寿命化」を進めます。
- ・地区ごとの「公民館分館」については、旧耐震である中粕川分館、石原分館について優先的に修繕を実施するものとし、その他については、計画的に修繕を進めます。なお、中粕川分館については『大郷町復興再生ビジョン』に基づき今後検討を進めます。
- ・中粕川地域においては、復興再生のための地域づくりの一環として、防災センターの整備を検討するとともにコミュニティ空間の形成を図ります。

③環境景観形成の方針

- ・町民アンケートでは、「船形連峰の眺望景観」(29.5%)、「吉田川の河川景観」(25.0%)、「雄大な田園景観」(23.5%)が、魅力的な景観・保全すべき景観として支持を集めています。地区中央部に広がる田園は、一団の優良農地の保全に努めるとともに、船形連峰への眺望景観の保全を図ります。
- ・今後、中粕川地区を中心とし、『大郷町復興再生ビジョン』(2020年6月)に基づき防災安全度を高める事業が進められますが、地区の歴史や文化を資源として継承できるように努めます。

図 5.20 粕川地域の方針図



2-4 大松沢地域

(1) 現状と課題

①人口推移

【地域人口】：4地域の中で最も人口減少が大きい地域で、中でも吉ヶ沢地区の減少率が大きくなっている。

- ・直近11年間の地域人口は、18%減（347人減）で、これは町内で最も人口減少率が高い値です。
- ・特に減少率が高いのは吉ヶ沢地区の25.9%減（65人減）、減少人数（実数）が最も大きいのは下町地区の70人（17%）減となっています。
- ・吉ヶ沢地区の減少率（25.9%減）は、大谷西部地域の不来内地区（29.9%減）に次ぐ水準です。

図 5.21 大松沢地域の人口推移

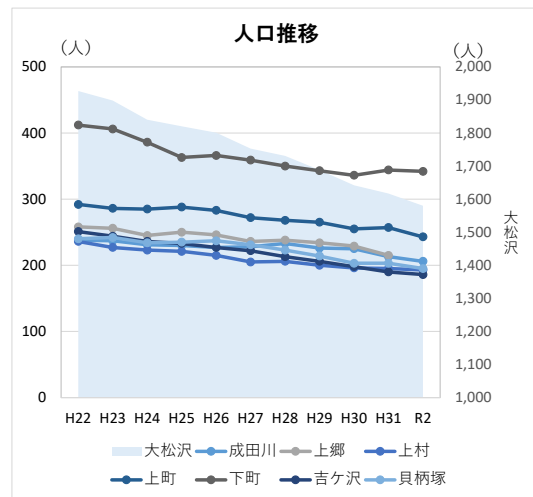


表 5.14 大松沢地域の人口推移

人口 (人)	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	増減率	増加数	空き家
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R2/H22	R2-H22	R2
成田川	238	237	231	230	227	228	233	226	225	213	206	-13.4%	-32	2戸
上郷	258	256	245	250	246	236	238	234	229	215	215	-16.7%	-43	1戸
上村	236	227	223	221	215	205	206	200	196	195	193	-18.2%	-43	1戸
上町	292	286	285	288	283	272	268	265	255	257	243	-16.8%	-49	5戸
下町	412	406	386	363	366	359	350	343	336	344	342	-17.0%	-70	7戸
吉ヶ沢	251	244	236	233	227	222	213	206	198	190	186	-25.9%	-65	1戸
貝柄塚	240	242	234	235	237	231	223	214	203	203	195	-18.8%	-45	4戸
小計	1,927	1,898	1,840	1,820	1,801	1,753	1,731	1,688	1,642	1,617	1,580	-18.0%	-347	21戸
大郷町計	9,101	8,985	8,858	8,800	8,686	8,559	8,478	8,324	8,204	8,089	7,999	-12.1%	-1,102	129戸

【地域世帯数】：下町地区では世帯数が増加し、成田川地区では減少している。

- ・直近 11 年間の地域世帯数は、2.5%増となっています。増加率、増加実数、双方の最大は下町地区で 13.6%増（15 世帯増）となっています。
- ・世帯数の減少率が最も大きいのは成田川地区であり 7.4%減（8 世帯減）です。

図 5.22 大松沢地域の世帯数

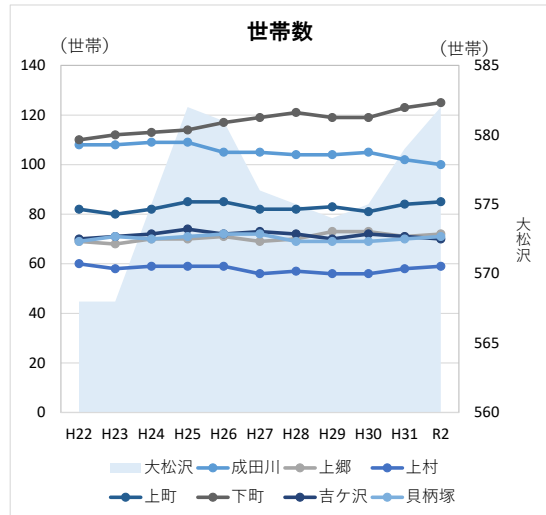


表 5.15 大松沢地域の世帯数

世帯数 (世帯)	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	増減率	増減数	世帯当たり人員	
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R2/H22	R2-H22	H22	R2
成田川	108	108	109	109	105	105	104	104	105	102	100	-7.4%	-8	2.2	2.1
上郷	69	68	70	70	71	69	70	73	73	71	72	4.3%	3	3.7	3.0
上村	60	58	59	59	59	56	57	56	56	58	59	-1.7%	-1	3.9	3.3
上町	82	80	82	85	85	82	82	83	81	84	85	3.7%	3	3.6	2.9
下町	110	112	113	114	117	119	121	119	119	123	125	13.6%	15	3.7	2.7
吉ヶ沢	70	71	72	74	72	73	72	70	72	71	70	0.0%	0	3.6	2.7
貝柄塚	69	71	70	71	72	72	69	69	69	70	71	2.9%	2	3.5	2.7
小計	568	568	575	582	581	576	575	574	575	579	582	2.5%	14	3.4	2.7
大郷町計	2,610	2,618	2,643	2,681	2,704	2,727	2,744	2,751	2,769	2,794	2,798	7.2%	188	3.5	2.9

【高齢化率】：町内で最も高齢化率が高い地域となっている。

- ・2020 年 3 月末の当該地域全体の高齢化率は、43.0%と町内で最も高い地域です。
- ・高齢化率が最も高いのは成田川地区で 54.4%に達しており、2 人に 1 人が 65 歳以上という 50%水準を町内では唯一超えています。
- ・地域内で高齢化率が最も低いのは上郷地区と上町地区ですが、いずれも 39.5%とほぼ 40%の水準に至っています。

図 5.23 大松沢地域の高齢化率

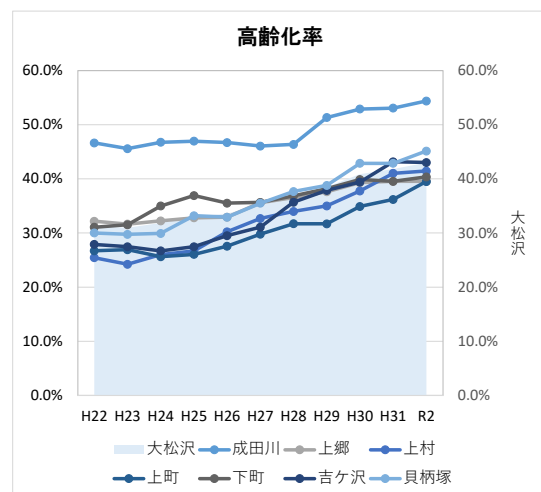


表 5.16 大松沢地域の高齢化率

高齢化率	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	増減率	増加数
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R2/H22	R2-H22
成田川	46.6%	45.6%	46.8%	47.0%	46.7%	46.1%	46.4%	51.3%	52.9%	53.1%	54.4%	0.9%	1
上郷	32.2%	31.6%	32.2%	32.8%	32.9%	35.6%	36.6%	37.6%	39.3%	39.5%	39.5%	2.4%	2
上村	25.4%	24.2%	26.0%	26.7%	30.2%	32.7%	34.0%	35.0%	37.8%	41.0%	41.5%	33.3%	20
上町	26.7%	26.9%	25.6%	26.0%	27.6%	29.8%	31.7%	31.7%	34.9%	36.2%	39.5%	23.1%	18
下町	31.1%	31.5%	35.0%	36.9%	35.5%	35.7%	36.9%	38.2%	39.9%	39.5%	40.4%	7.8%	10
吉ヶ沢	27.9%	27.5%	26.7%	27.5%	29.5%	31.1%	35.7%	37.9%	39.4%	43.2%	43.0%	14.3%	10
貝柄塚	30.0%	29.8%	29.9%	33.2%	32.9%	35.5%	37.7%	38.8%	42.9%	42.9%	45.1%	22.2%	16
小計	31.2%	31.0%	31.8%	33.0%	33.6%	35.1%	36.9%	38.5%	40.9%	41.8%	43.0%	12.8%	77
大郷町計	28.0%	27.7%	28.2%	28.9%	29.8%	30.9%	32.4%	33.7%	35.0%	36.2%	37.1%	16.5%	420

【若年人口率】：町内で最も若年人口率が低い地域となっている。

- ・2020年3月末の地域若年人口率は、6.6%と町内の中で最も低い値となっています。
- ・地域内で若年人口率が最も低いのは吉ヶ沢地区であり4.8%に留まっています。また、成田川地区以外では全て10%未満の若年人口率です。
- ・高齢化率が最も高い成田川地区では、若年人口率が10.2%と地域内で最も高い値となっています。

図 5.24 大松沢地域の若年人口率

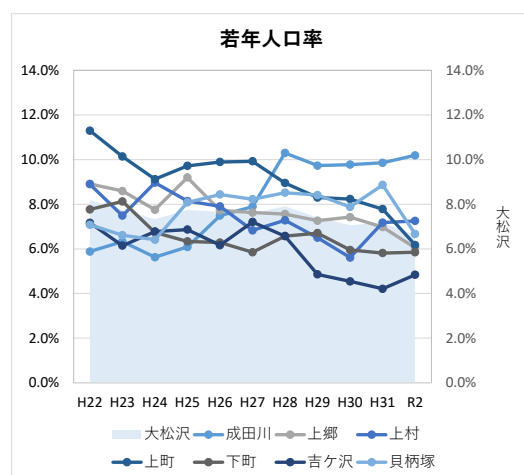


表 5.17 大松沢地域の若年人口率

若年人口率	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	増減率	増加数
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R2/H22	R2-H22
成田川	5.9%	6.3%	5.6%	6.1%	7.5%	7.9%	10.3%	9.7%	9.8%	9.9%	10.2%	50.0%	7
上郷	8.9%	8.6%	7.8%	9.2%	7.7%	7.6%	7.6%	7.3%	7.4%	7.0%	6.0%	-43.5%	-10
上村	8.9%	7.5%	9.0%	8.1%	7.9%	6.8%	7.3%	6.5%	5.6%	7.2%	7.3%	-33.3%	-7
上町	11.3%	10.1%	9.1%	9.7%	9.9%	9.9%	9.0%	8.3%	8.2%	7.8%	6.2%	-54.5%	-18
下町	7.8%	8.1%	6.7%	6.3%	6.3%	5.8%	6.6%	6.7%	6.0%	5.8%	5.8%	-37.5%	-12
吉ヶ沢	7.2%	6.1%	6.8%	6.9%	6.2%	7.2%	6.6%	4.9%	4.5%	4.2%	4.8%	-50.0%	-9
貝柄塚	7.1%	6.6%	6.4%	8.1%	8.4%	8.2%	8.5%	8.4%	7.9%	8.9%	6.7%	-23.5%	-4
小計	8.2%	7.7%	7.3%	7.7%	7.7%	7.6%	7.9%	7.4%	7.1%	7.2%	6.6%	-33.5%	-53
大郷町計	11.1%	11.1%	11.0%	11.4%	11.4%	11.4%	11.6%	11.3%	11.2%	11.1%	11.1%	-12.3%	-124

②土地利用

大松沢地域は、すべて都市計画区域外です。

【農地】：鶴田川並びに新堀川に沿った平地部は、まとまった優良農地として利用・保全されている。

- ・鶴田川並びに新堀川に沿った平地部は、ほ場整備等により農業基盤整備が施工され、まとまった優良農地として利用されています。また、農用地の規制により保全され、原則として農業利用以外の用途への転用は制限されています。
- ・平地部の優良農地では、近年、大規模な施設園芸型農場の誘致が行われ、農業系の産業拠点を形成しつつあります。

【既存集落】：平地部に接する丘陵部に既存集落が分布している。

- ・既存集落は、(主) 利府松山線及び(主) 石巻鹿島台色麻線に沿った丘陵部に分布しており、下町地区の丘陵端部に大松沢地域の中心的な農村集落が分布しています。

【工業・流通系】：地域の北端部の山林（農振白地区域）や山林部では、太陽光発電施設や空閑地等の非建築的土地利用が点在している。

- ・地域の北端部、上村地区の大崎市との境界部付近の山林（農振白地区域）や主要道路から奥まった山林部で太陽光発電施設や空閑地等の非建築的土地利用が点在しています。

【自然環境】：本地域北部の吉ヶ沢地区、上村地区は、保安林が指定され法的に保全されたまとまった山林となっている。

- ・吉ヶ沢地区には牧場を中心としたまとまった牧草採取地があり、隣接した山林は保安林となっています。

③施設整備状況

【公共建築物】：「大松沢社会教育センター」が地域の中心的施設となっている。

- ・地域内のコミュニティ活動の拠点施設として、上町地区に「大松沢社会教育センター」が設置されています。また7地区にはそれぞれ公民館分館が設置されています。
- ・(主) 石巻鹿島台大衡線から小高い丘陵部へ上がった大窪城址公園は、「新宮城観光名所百選」に選定されており、400本の桜の木が植えられている名所となっています。

【公共下水道】：本地域は、戸別合併処理浄化槽区域となっている。

- ・本地域には公共下水道区域は設定されておらず、戸別合併処理浄化槽区域となっています。

④住民意向

●居住環境

54.6%が「住みやすい」、69.7%が「住み続けたい」と感じています。

- ・「やや住みやすい」と「とても住みやすい」合わせて54.6%が「住みやすい」と感じています。
- ・これは町内平均（60.2%）を下回っており、4地域の中では最も低い値となっています。しかし一方で、「今後も住み続けたい」と「どちらかといえば住み続けたい」合わせて69.7%が「住み続けたい」と感じています。これは町内平均（69.4%）とほぼ同水準です。

●農地のあり方

「転用農地を決め秩序ある土地利用形成」と「ニーズに応じて積極的に転用を進めるべき」が34.4%と同数で最も多くなっています。

- ・「原則農地保全」は9.4%となり、農地に関する意向は、粕川地域と同様の傾向にあります。

●里山のあり方

「原則里山保全」が町内平均を上回っています。

- ・「生活利便性を高める施設に活用」が38.5%で最も多い意向ですが、町内平均41.9%を若干下回っています。
- ・「ニーズに応じて積極的に転用を進めるべき」は33.8%となっています。

●魅力的景観

「里地・里山景観」が28.4%と最も多く、町内平均19.6%を大幅に上回っており、この地域の特徴を表しています。

- ・次いで「船形連峰の眺望景観」が25.5%と続き、これも町内平均22.5%を上回っています。

●将来像

「日常生活が便利な地区」が28.1%、次いで「都市基盤の整備」が26.6%と、これらが多く、町内平均と同水準となっています。

- ・特徴的であるのは、「医療体制の安心」が20.3%を占め、これを求める意向が他地域より高くなっています。

(2) まちづくりの方針

地域の課題を踏まえた、まちづくりの目標を設定します。

●まちづくりのテーマ

農業を核とする、新たな拠点形成に向けた地域づくり

①土地利用の方針

<産業拠点> (大規模「施設園芸型」農場の集積による農業拠点)

- ・大松沢の東部地区は、大規模「施設園芸型」農場の誘致促進により、2017年に大規模施設園芸施設が3社進出するなど農業施設集積地域として形成しています。今後も農業法人等の誘致を積極的に受け入れることにより、新たな産業拠点の推進を図ります。

<里地里山>

- ・地域北端部や主要道路から奥部にある山林エリアでは、太陽光発電施設等の非建築的土地利用が点在しています。特に東日本大震災以降、メガソーラー開発の増大が顕著となってきたことから、これらの沿道から奥部にある里山では、里地・里山の保全に向けた大規模開発を抑制するための開発の事前段階において、開発指導要綱等による土地利用調整を積極的に進めるとともに新たな調整の仕組みについて検討を進めます。
- ・開発後については、開発者と町とで公害防止協定を締結し、周辺環境への影響や災害時の対応について予め協議を行っていきます。特に、大規模な工場跡地や資材置場、土砂採取後の土地などは、利活用されていない低未利用地が見られますが、これらは適切な土地管理がなされるよう継続的にモニタリングに努めます。また、土地所有者や施設管理者に管理の適正化を働きかけ、土砂採取地の緑地復元等についてもモニタリングを進めます。

<既存集落>

- ・既存集落は、「大松沢社会教育センター」を地域拠点として集落保全地域を形成します。既存のコミュニティを維持しつつ、空き地・空き家バンクを利用した新規住民の受け入れを進めます。
- ・需要に応じた計画的かつ優良な住宅地に限り、農地から住宅へ土地利用転換の誘導を図ります。

②地域基盤施設の方針

<道路> (『大郷町復興再生ビジョン』2020年6月)

- ・町道の中長期的な整備計画の検討を進めますが、当面は令和元年東日本台風被害からの復旧整備事業を優先して取り組みます。
- ・『大郷町復興再生ビジョン』による、本地域の2022年3月までに完了予定の事業は、次のとおりです。

<町道復旧整備計画> 鶴田横沢線(成田川)、大松沢原屋敷線(上郷)、荒井泥畑線(上村)

＜河川＞（『大郷町復興再生ビジョン』2020年6月）

- ・『大郷町復興再生ビジョン』により、本地域において、2022年3月までに完了予定の事業は、以下のとおりです。

＜河川復旧整備計画＞木戸脇川(上郷)、鶴田川(上村)

＜上下水道＞

- ・大松沢には公共下水道事業や農業集落排水事業が整備されていないことから、自然環境への負荷の低減や生活環境の改善を図るため、戸別合併処理浄化槽の普及を推進します。
- ・県による「3水道事業一体化」構想については、宮城県水道事業広域連携検討会大崎地域部会において検討を進めます。

＜公園等＞

- ・「大窪城址公園」は、地域の人々が桜の木を植樹しており、こうした町民活動を支援できるよう検討を進めます。

＜公共建築物＞（『第2次・大郷町公共施設等個別整備計画』2020年6月）

- ・「大松沢社会教育センター（集会施設）」は、2016年建築なので、適切な点検と保守により施設の効用と維持を図ります。
- ・屋内体育館は、「長寿命化」とし、施設の点検と予防的な改修工事を計画的に実施していくものとします。
- ・旧小学校校舎については「継続検討」とし、施設の必要性及び代替施設の検討を引き続き行います。
- ・「旧大松沢診療所」、「旧大松沢ふれあいセンター」は、民間企業への貸付を実施するとともに「譲渡」に向けて取り組むものとします。
- ・地区ごとの「公民館分館」（成田川分館、上郷分館、上村分館、上町分館、下町分館、吉ヶ沢分館、江戸沢分館）については、計画的に早期の修繕を進めます。老朽化した分館は、地元の資金準備ができた段階で改築を進めます。

③環境景観形成の方針

- ・町民アンケートによると、「里山のあり方について」は、「原則里山保全」が町内平均を上回っており、「魅力的景観」についても「里地・里山景観」が町内平均を大幅に上回っていることから、里地・里山の保全を進めます。
- ・大窪城址公園は、四季折々の木々が並び大郷町を一望できる癒しの場となっており、歴史的価値がある観光名所とするために、環境整備に努めます。

図 5.26 大松沢地域の方針図

